

エコアクション21 環境活動レポート



対象期間 2024年4月～2025年3月

発行日：2025年5月12日



山形警備保障株式会社

目次

1. 組織の概要	3
1. 事業所名及び代表者名	
2. 事業内容	
3. 所在地と連絡先	
4. 事業の規模	
2. 対象範囲と対象取組期間	3
1. 認証・登録範囲	
2. 活動レポートの対象期間	
3. エコアクション21実施体制	4
4. 環境経営方針	5
5. 環境経営目標	6
6. 次年度の目標並びに中長期目標	7
7. 環境経営計画	8
8. 環境経営目標の実績と評価	9
1. 二酸化炭素排出量	
2. 廃棄物排出量	
3. 総排水量・水使用量	
4. 自らの活動に関する項目	
5. 自らが提供するサービスの改善	
9. 環境経営計画の取組結果とその評価と次年度の取組内容	13
1. 環境活動計画の取組状況の評価	
2. 次年度の取組内容	
10. 環境関連法規等の遵守状況のチェック結果	14
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	15
1. 環境経営システムの有効性の評価	
2. 環境経営システム変更の必要性	
3. 次年度以降の取組の方向性	

1. 組織の概要

1-1. 事業所名及び代表者名

- 山形警備保障株式会社
- 代表取締役 我妻 壽一 (ワガツマ ジュイチ)

1-2. 事業内容

- 警備業 (機械警備・常駐警備・現金輸送警備業務)

1-3. 所在地と連絡先

- 本社 〒990-2481 山形県山形市あかねヶ丘一丁目 3-34
- 庄内支社 〒998-0102 酒田市京田1丁目 2-7
- 東根(営) 〒999-3782 東根市本丸西三丁目 7-28
- 寒河江(営) 〒991-0003 寒河江市大字西根字上川原 171
- 天童(分駐所) 〒994-0013 天童市老野森 2-1
- 流通センター(分駐所) 〒990-0071 山形市流通センター二丁目 3
- 西部工業団地(分駐所) 〒990-2351 山形市鑄物町 10
- 上山(分駐所) 〒999-3124 上山市金生東一丁目 2-3
- 連絡先 TEL 023-643-1266 FAX 023-643-0898
- 担当者 環境管理責任者 向田 匡利

1-5. 事業の規模

- 従業員数: 195 人/全社 (パート含む)
- 年間売上: 8 億 6 千万円

2. 対象範囲と対象取組期間

2-1. 認証・登録範囲

- (1) 取組の対象組織 全組織
- (2) 取組の対象活動 業務全般

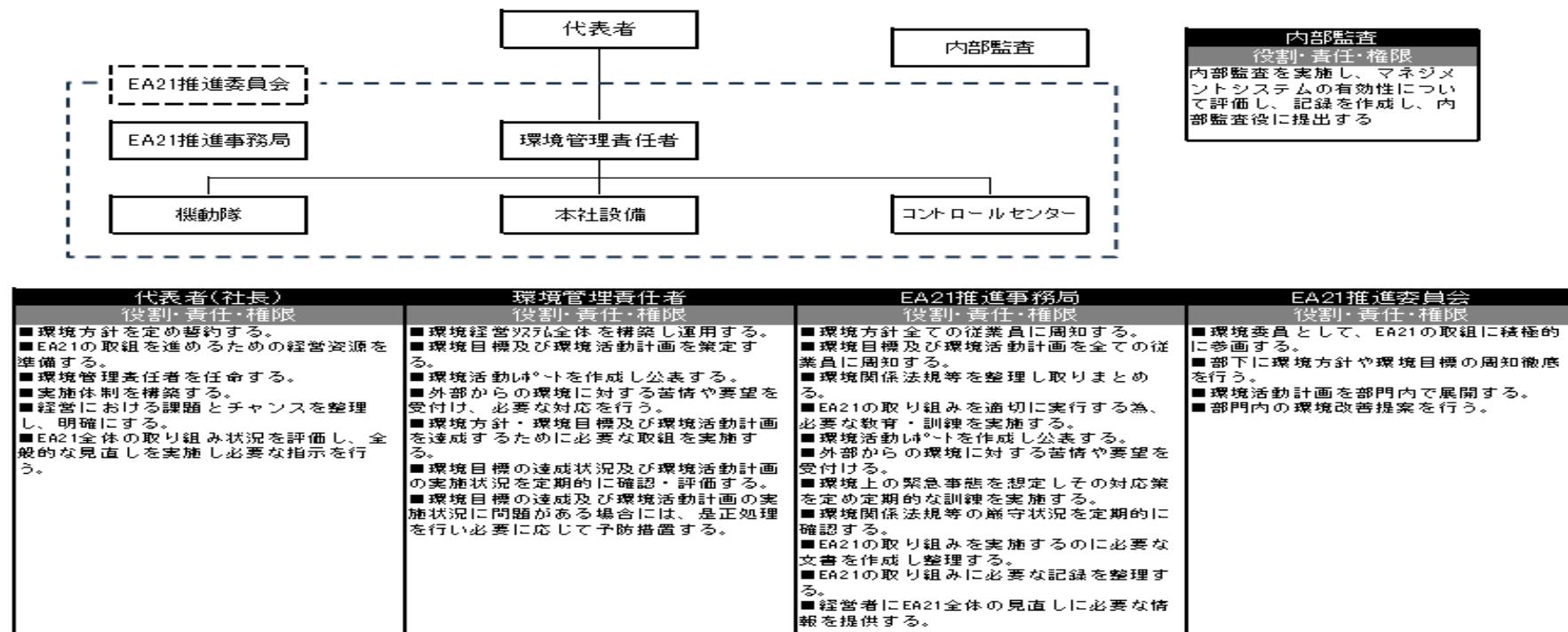
2-2. 環境活動レポートの対象期間

2024年4月～2025年3月

3. エコアクション21実施

<エコアクション21実施体制>

- 作成者: 永井 利樹
- 制定日: 2013年10月7日
- 改訂日: 2025年4月25日



4. 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

山形警備保障株式会社は、「お客様に大きな安心を」を基本理念に、機械警備業務、施設警備業務、交通誘導業務、現金輸送業務等の事業活動をする中で、電気、石油類及び紙類などのエネルギーや資源の消費、さらに各種廃棄物の発生を伴います。私たちは、地球環境の保全が企業経営の最重要課題であると位置づけ、環境マネジメントシステムを導入し、環境負荷削減を目的とした継続的な取組みを実施します。

行動指針

- 1.エコドライブの実践や省エネ等により、
二酸化炭素排出量の削減目標を定め削減に取り組みます。
- 2.環境関連の法律、規則、条例及びその他の決まりを遵守します。
- 3.適切な廃棄物の分別を行い、廃棄物の削減に取り組みます。
- 4.水資源の有効利用のため、節水に取り組みます。
- 5.環境マネジメントシステムの構築・維持とすべての従業員への環境教育、
社内啓発活動を実施します。
- 6.地域の環境保全に努めます。

平成 25 年 10 月 1 日制定

平成 29 年 5 月 1 日改定



山形警備保障株式会社

代表取締役社長 我妻 壽一

5. 環境経営目標

<環境経営目標(2024年度)>

【全社対象(各サイトも含む)】

■作成日:2024年8月30日

■様式制定日:2013年9月17日

■取組期間:2024年4月1日～2025年3月31日

環境目標項目	対象部署	基準年	実績値	2024年度 環境目標		環境目標の内容	中期目標(期間:2024年度～2028年度)					備 考	
				環境目標の内容	環境目標値		2024年	2025年	2026年	2027年	2028年		
二酸化炭素排出量	■電力使用	本社・西部 上山・天童	2017年度	111,058	基準年度実績値の 3.5%削減	107,171	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	単位:kg-CO ₂
	■化石燃料消費						削減	削減	削減	削減	削減		
	1)ガソリン	社用車	2017年度	73,939	基準年度実績値の 3.5%削減	71,351	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	単位:kg-CO ₂
	2)軽油	社用車	2017年度	4,556	基準年度実績値の 3.5%削減	4,397	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	
	3)灯油	本社・西部・上山 寒河江・東根	2017年度	6,628	基準年度実績値の 3.5%削減	6,396	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	単位:kg-CO ₂
	4)LPG	本社・西部・上山 寒河江・流通	2017年度	267	基準年度実績値の 3.5%削減	258	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	
	総量		2017年度	262,352	基準年度実績値の 3.5%削減	253,170	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	単位:kg-CO ₂
	■一般廃棄物	全社	2017年度	2,315	基準年度実績値の 3.5%削減	2,234	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	※可燃ゴミ処理料 除いた割合
	■産業廃棄物	全社	2017年度	2,400	基準年度実績値の 3.5%削減	2,316	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	
自らが提供 するサービスの改善	社員のスキルアップ	社内講習受講者	2017年度	2	社員の技術・知識の 向上	-	スキル向上のための講習会の実施					年15回	
用水量使 用	上 水	本社・上山 天童・東根	2017年度	455	基準年度実績値の 3.5%削減	439	基準年度実績値の 5.5%削減	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	単位:m ³
	地下水(消防用)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シグ リ 入 1	事務用品	事務所員	-	-	エコ商品購入率の把握	-	エコ商品購入率の向上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	※購入金額ベース
	車両・設備・機械等	営業部	-	-	社内ルールの確立	-	社内ルールの定着化					-	
会社周辺の 清掃活動	事務所員	-	8	会社周辺の清掃活動 (公園等)	年8回	会社周辺の清掃活動 (公園等)					年8回		

■化学物質の削減は使用していないので、目標設定しておりません。

6. 次年度の目標並びに中長期目標

＜次年度の目標並びに中長期目標＞

＜環境経営目標(2025年度)＞

【全社対象(各サイトも含む)】

■作成日:2025年4月30日

■様式制定日:2013年9月17日

■取組期間:2025年4月1日～2026年3月31日

環境目標項目	対象部署	基準年	実績値	2025年度 環境目標		環境目標の内容	環境目標値	中期目標(期間:2025年度～2029年度)					備考
				環境目標の内容	環境目標値			2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	
二酸化炭素排出量	■電力使用	本社・西部・上山・天童	2017年度	111,068	基準年度実績値の3.5%削減	107,171	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	単位:kg-CO ₂
	■化石燃料消費							削減	削減	削減	削減	削減	
	1)ガソリン	社用車	2017年度	73,939	基準年度実績値の3.5%削減	71,351	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	単位:kg-CO ₂
	2)軽油	社用車	2017年度	4,556	基準年度実績値の3.5%削減	4,397	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	
	3)灯油	本社・西部・上山・寒河江・東根	2017年度	6,628	基準年度実績値の3.5%削減	6,396	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	単位:kg-CO ₂
	4)LPG	本社・西部・上山・寒河江・流通	2017年度	267	基準年度実績値の3.5%削減	258	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	
	総量		2017年度	262,352	基準年度実績値の3.5%削減	253,170	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	単位:kg-CO ₂
	■一般廃棄物	全社	2017年度	2,315	基準年度実績値の3.5%削減	2,234	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	※可燃ゴミ処理料金を取扱いた割合
	■産業廃棄物	全社	2017年度	2,400	基準年度実績値の3.5%削減	2,316	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	
自らが提供するサービスの改善	社員のスキルアップ	社内講習受講者	2017年度	9	社員の技術・知識の向上	年15回	スキル向上のための講習会の実施						
用水量使用	上水	本社・上山・天童・東根	2017年度	455	基準年度実績値の3.5%削減	439	基準年度実績値の5.5%削減	4.0	4.5	5.0	5.5	5.5	単位:m ³
	地下水(消費用)		—	—		—							
シグマリ入力	事務用品	事務所員	—	—	エコ商品購入率の把握	—	エコ商品購入率の向上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	※購入金額ベース
	車両・設備・機械等	営業部	—	—	社内ルールの確立	—	社内ルールの定着化					—	
会社周辺の清掃活動	事務所員	—	8	会社周辺の清掃活動(公園等)	年8回	会社周辺の清掃活動(公園等)							年8回

■化学物質の削減は使用していないので、目標設定しておりません。

7. 環境経営計画

＜環境経営計画（2025年度）＞

【各サイトも含んだ計画】

■作成日：2025年4月25日

■制定日：2024年5月1日

■取組期間：2025年4月～2026年3月

環境目標	活動・取組項目	活動の具体的な内容 (どのように)	実施時期 (いつまでに)	該当場所・部門 (どこで)	頻度・チェック方法
二酸化炭素排出量の削減	■消費電力の削減	■室温は、暖房期20℃、冷房期28℃で管理する。	冷暖房期間	事務所	随時、温度計でチェック
		■定期的にエアコンのフィルターを清掃する。	随時	事務所	随時チェック
		■不必要的照明は消す。	通年	事務所	毎日
		■照明器具LED化	適時	全社	
		■使用量の可視化、各年度との比較	通年	本社	4半期毎、フィードバックレポートの発行
		■レーザープリンターによるカラーコピーの削減	通年	本社	毎月
	■ガソリン・軽油使用量の削減	■エコ運転の教育研修	6月～11月	全社	警備員教育の中で実施
		■アイドリング停止の徹底	通年	全社	毎日
		■タイヤの空気圧を定期的に調整する	通年	全社	毎日
		■車両点検などで運行記録（燃費も含む）を把握する	通年	全社	毎日
		■経済速度の遵守	通年	全社	毎日、点呼時の声掛け
の削減と物適正排出管理	■その他化石燃料の削減 (灯油・LPG)	■使用量の可視化、各年度との比較	通年	本社	4半期毎、フィードバックレポートの発行
		■定期的にファンヒーターのフィルターを清掃する。	10月～5月	全社	随時点検
		■室温は、暖房期20℃で管理する。	10月～5月	全社	随時チェック
		■ウォームビズの実施。	10月～5月	全社	随時、温度計でチェック
		■使用量の可視化、各年度との比較	通年	本社	4半期毎、フィードバックレポートの発行
	■一般廃棄物の削減 (リサイクルの推進)	■分別のルールの確立と周知徹底	通年	全社	分別ルール（掲示物）作成
		■廃棄物置場のリニューアル	通年	廃棄物置場	現場確認
		■コピー用紙削減（両面コピー・裏紙利用の徹底）	通年	本社	随時巡回確認
		■一般廃棄物の排出量記録	排出時	廃棄物置場	記録表をチェック
		■排出量の可視化、各年度との比較	通年	本社	4半期毎、フィードバックレポートの発行
の水総削減	■産業廃棄物の適正管理	■保管場所の管理	通年	廃棄物置場	随時巡回確認
		■マニフェスト・契約書類の管理	通年	業務部	毎月定期チェック
		■委託先の状況確認	通年	委託先	環境コミュニケーション記録
		■排出量の可視化、各年度との比較	通年	本社	4半期毎、フィードバックレポートの発行
自らが提供するサービスの改善	■社員のスキルアップ	■トイレの流水量の調整	通年	全社	随時巡回確認
		■手洗い時の節水（掲示）	通年	全社	随時巡回確認
グリーン購入	■グリーン購入	■講習会の実施	通年	本社	随時、業務課と確認
		■グリーン購入ネットワーク（GPN）認定商品（エコ商品）の選定	物品購入時	業務	
		■事務消耗品のエコ商品購入率の把握	通年	業務	
		■車両・設備・機械等購入時のルール確立	通年	EA21推進委員会	EA21推進委員会で報告

8. 環境経営目標の実績と評価

	2017 年度 実績 (基準値)	2024 年度			
		目標値	実績 (基準値増減)	基準値 増減率	評価
■二酸化炭素排出量	270,568 kg-CO ₂ /年	2017 年度比 3.5%削減 261,098 kg-CO ₂ /年	222,965 kg-CO ₂ /年 (-47,603)	-17.6%	○
・電気使用量	111,058 kwh/年	2017 年度比 3.5%削減 107,170 kwh/年	113,296 kwh/年 (+1,788)	2.0%	△
・軽油	4,556 L/年	2017 年度比 3.5%削減 4,397 L/年	4,676 L/年 (+142)	2.6%	△
・ガソリン	73,939 L/年	2017 年度比 3.5%削減 71,351 L/年	55,556 L/年 (-18,383)	-24.9%	○
・灯油	6,664 L/年	2017 年度比 3.5%削減 6,431 L/年	7,667 L/年 (+1,003)	15.0%	×
・LPG	267 kg/年	2017 年度比 3.5%削減 258 kg/年	88.5kg/年 (-178.5)	-66.9%	○
■一般廃棄物排出量	819 kg/年	2017 年度比 3.5%削減 790 kg/年	1,412 kg/年 (+593)	72.3%	×
■産業廃棄物	2,315 kg/年	2017 年度比 3.5%削減 2,234 kg/年	1,570 kg/年 (-745)	-32.2%	○
■総排水量 (水使用量)	455 m ³ /年	2017 年度比 3.5%削減 439 m ³ /年	345.6 m ³ /年 (-13)	-24.0%	○
■グリーン購入の推進	90%以上	事務消耗品 90%以上 を掲げる予定	—	—	—
■地域環境保全への協力	地域の清掃活動 8回/年	2023 年度同様継続	地域の清掃活動 — /年	—	—
■自らが提供するサービスの改善 ※社員のスキルアップ	—	3カ月間の社内講習会	検定受講結果 受講者数：9名 合格者数：7名	—	×

※ ○…-10%以上 ○…-10%未満～0%以上 △…0%未満～+10%未満 ×…+10%以上

※ 電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力の 2016 年度の値 (0.553kg-CO₂/kwh) を使用。

8－1. 二酸化炭素排出量

1) 全体（目標：3.5%削減）

二酸化炭素排出量（軽油・ガソリン含む）は、基準値に対し 17.6%減少いたしました。目標値達成いたしました。

ガソリン、LPG、産業廃棄物の減が主要な要因です。

※電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力の 2016 年度の値（0.553kg-CO₂/kwh）を使用。

2) 電気使用量（目標：3.5%削減）

基準値に対し 2.0%増加いたしました。目標値不達成でした。

西部分駐所は暖房を灯油ヒーターからエアコンに変更していることが、増加の要因であると考えられます。

3) 軽油使用量（目標：3.5%削減）

基準値に対し 2.6%増加いたしました。目標値不達成でした。

機械設備班の工事の件数と逆相関になります。アフターコロナによって市場が活動的になった事が増加の要因であると考えられます。

4) ガソリン使用量（目標：3.5%削減）

基準値に対し 24.9%減少しました。目標値達成しました。

2022 年度のガソリン使用量（59,952L）や、2023 年度のガソリン使用量（56,813L）よりも下回っているため、社長からのトップダウンの指示（出来る範囲で少しずつ）に対し、各部署において努力してきた結果であると考えられます。

5) 灯油使用量（目標：3.5%削減）

基準値に対し 15.0%増加しました。目標値不達成でした。

コロナ禍より本社機動隊員室が分室化されております。使用量は昨年度（8,673L）より下回っているため、妥当な数値であると考えられます。

6) LPガス使用量（目標：3.5%削減）

LPガス使用量は、基準値に対し 66.9%減少いたしました。目標値達成しました。

コロナウィルス感染対策である湯茶接待の廃止や、社員の節約意識の定着が要因あると考えられます。

8－2. 廃棄物排出量

1) 一般廃棄物（目標：3.5%削減）

基準値に対し 72.3%増加いたしました。目標値不達成でした。

主な要因としては、これまで溶解処理工場に持ち込みしていた紙ゴミを、現状では産業廃棄物の処理業者へ引き渡しているためであると考えられます。

2) 産業廃棄物（目標：3.5%削減）

基準値に対し 32.2%減少いたしました。目標値達成しました。

警備機器の入れ替えの量に左右されます。機械設備班での再分別作業の結果も織り込まれていると考えられます。

8－3. 総排水量・水使用量（目標：3.5%削減）

基準値に対し 24%減少しました。目標値達成しました。

社員の節約意識の定着が要因あると考えられます。

8－4. 自らの活動に関する項目

1) 山形スマートドライバーへの参加

山形スマートドライバー運動に参加しており、会社所有の全車両にスマートドライバーステッカーを貼付しています。車両運転者は 1975 年に制定した「運転の誓い」を遵守し無事故運転に努めるとともに思いやり運転に心掛け「急発進、急ハンドル、急ブレーキ」の 3 つの「急」のつく運転は行わないようしております。

新規顧客先が多くなれば必然的に走行距離も増加しますが、警備員現任教育（法定教育年 1 回）などを利用しエコドライブの教育などを実施しております。また車の買い替え時、燃費の良い車両を導入します。（2019 年 11 月ハイブリッド車導入）

2) グリーン購入

データ量は把握しておりませんが、今後事務用品以外も購入していきます。

3) 地域の清掃活動

企業行動憲章の一つに“地域社会における企業市民としての責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を行う”ことを掲げています。毎月第 3 土曜日の朝 6 時から町内会清掃があり、その際は社員も参加し、草刈りや落葉集めを行っております。

（2017 年 2 月 10 日、山形市を美しくする運動推進員会（会長 山形市長）から、多年にわたる地域美化活動に対し功労表彰を受賞しています。）

昨今、主要メンバーが自身の町内会の組織に組み込まれる世代となってきており、対応できる人員も減少してきている状況ですが、2024 年度は数回の参加がありました。



「あかねヶ丘公園の清掃活動」

8－5. 自らが提供するサービスの改善

1) 検定取得に向けた社員のスキルアップ研修会

警備員になるには、特別な資格は必要とせず、基本的に新任教育と現場OJT研修を経て、警備業務に従事する事が出来ます。

当社では更にサービスの質を向上させるため、検定取得に向けた社員のスキルアップ研修会を、社内講師が作成したカリキュラムに基づき週1回実施しております。

社内講師は、過去に外部講師としてのキャリアを持っているため、適宜、受講者の弱点にフォーカスしたマンツーマン指導を実現できます。これにより受講者は、検定試験の合否に関わらず一定水準以上の知識と技能を習得することができます。

9. 環境活動計画の取組結果とその評価と 次年度の取組内容

9-1. 環境活動計画の取組状況の評価

【評価区分】 ◎・・良くできた ○・・できた △・・やや不十分 ×・・不十分

【全社対象】

活動・取組項目		活動の具体的な内容	評価
二酸化炭素排出量の削減	■消費電力の削減	・不要照明の消灯	◎
		・照明器具の改善	◎
		・OA機器 家電製品の待機電力の削減	○
		・冷暖房の温度管理 (冬20℃、夏28℃)	◎
		・冷房機器の清掃	○
		・冷暖房の環境向上	◎
	■エコ運転の実施	・経済速度の厳守	◎
		・運転記録票の記載	◎
		・アイドリング時間の削減	○
		・エコドライブの教育研修	◎
産業廃棄物排出量の削減	■廃棄物分別の徹底	・分別の徹底	○
		・廃棄物置の整理	◎
		・リサイクルの徹底	○
	■紙使用の削減	・印刷物の削減	◎
		・用紙の裏紙使用	◎
		・シュレッダーの削減	◎
	■水道使用量の削減	・手洗い時の節水	◎
		・トイレタンクの節水	◎
の削減 総排水量	■地下水の適正使用	・利用目的に応じた適正使用 (洗車)	◎
	■グリーン購入	・可能な限りグリーン商品の購入	△
エコ関連	■環境保全	・公園清掃活動	△
サービスの改善	■社員のスキルアップ	・社員のスキルアップ (資格取得へ向けての社内訓練、合格率の算出を行います)	○

9-2. 次年度の取組内容

■二酸化炭素排出量の削減	・クールビズ・ウォームビズの啓蒙 ・エコカーの導入計画 ・全社社内照明LED化計画 ・エコドライブの徹底
■廃棄物排出量の削減	・リサイクル品の分別徹底 ・ペーパーレス化の推進
■水使用量の削減	・節水グッズの導入 ・節水の徹底
■グリーン購入	・グリーン用品の購入
■社会貢献	・環境活動に積極的に参加
■自らが提供するサービスの改善	・社員のスキルアップ (資格取得へ向けての社内訓練、合格率統計)

10. 環境関連法規等の遵守状況のチェック結果

適用法令	適用範囲	法規の要求事項	結果
下水道法	有機物質又は油を排出した時	事故の届け出	○
消防法	事故の処置	消防署への通報	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物、産業廃棄物	保管場所表示、保管基準の厳守	○
		運搬・処分業者との委託契約	○
		マニフェストの交付・回収	○
		マニフェストの交付状況の報告	○
リサイクル関連	テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機	廃棄時リサイクル料負担	○
		適正処理	○
	自動車	新車購入時リサイクル料負担	○

環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありませんでした。

関係機関からの違反等の指摘は過去3年間、1件もありませんでした。

1 1. 代表者による全体評価と見直しの結果

1 1-1. 環境経営システムの有効性の評価

2024 年度の「二酸化炭素排出量」は、2017 年度(基準年)比 17.6% 減となり目標値を達成しました。使用量の項目ごとで見ると、ガソリン使用量は基準年比 24.9% 減、LPG 使用量は基準年比 66.9% 減で削減目標を大きく上回りました。エコドライブの定着やコロナウィルス感染対策による湯茶接待の廃止などが要因であると考えられます。

廃棄物の排出量は一般廃棄物排出量が基準年比 72.3% 増となりました。これまで溶解処理を行っていた一般廃棄物を、昨年から業者に委託していたことが要因であると考えられます。産業廃棄物排出量は基準年比 32.2% 減と削減目標を大きく上回りました。この数値は契約先の機器撤去、入れ替えなどが最も大きく影響するため、機器の処分が少ない年だったと考えられますが、試験的に実施した機械設備班での廃棄物の再分別化の成果も影響があったと考えます。

ここ数年の二酸化炭素排出量ですが、2019 年から 2023 年でそれぞれ -10.4%、-8.9%、-11.2%，-11.5%，-11.8% と順調に削減されてきており、私たち社員は、環境負荷の削減に真剣に取り組む意識を定着させつつあります。

1 1-2. 環境経営システム変更の必要性

環境経営方針 : 継続

環境経営目標 : 継続

環境活動計画 : 継続

実施体制 : 継続

1 1-3. 次年度以降の取組の方向性

- ◇ レーザープリンターによるカラー出力は削減する事ができました。新型コロナウィルスの 5 類移行により市場が戻りつつあり、大型イベントで使用する資料などの出力が昨年より増加しました。市場が戻っても、削減の意識は忘れないよう注意喚起していきます。また、次のステップとして紙自体の出力枚数の削減へも取り組んでいきます。
- ◇ 社内のスキルアップ研修会を強化し、警備業務検定所持者数の増加及び更なるサービスの向上を目指します。『高きを仰ぐ』ことを意識して、現状よりさらに一步上を目指すことで、新たな知識と技術を得て視野が広がり、仕事に幅が出ます。EA 2 1 推進委員会と社内講師陣のタイアップにより、実現していきます。